

## 横山の自然：森

横山展望台周辺の森林は、暖流である黒潮の影響によってもたらされる温暖な気候に適した常緑広葉樹がほとんどです。何世紀にもわたって、住民たちは自分たちの必要に応じてこの地域の森に手を加え、里山と呼ばれる資源と持続可能性のために管理される森林地域をつくりあげてきました。

横山の森で最もよくみられる木はウバメガシです。住民たちは、古くから備長炭と呼ばれる活性炭を作るのに最適な硬くて密な木質を持つこの常緑樹を好んで利用してきました。他方、アラカシは薪として利用されました。また、これらのカシから落ちるドングリは、森にすむリスなどの動物の栄養源にもなっています。

遊歩道沿いに生える他の樹木には以下があります。

- **トベラ**：白い花を咲かせる常緑低木
- **ヤマモモ**：春の若葉は赤っぽい色をしている；初夏に赤い実をつける
- **ヒノキ**：木材として伐り出される（伊勢神宮で使われることで最もよく知られている）；過去には家屋を新築する人は森林の資源を補充するため新たに数本のヒノキの苗を植樹するのが習わしかった
- **クサギ**：ピンク色ががくに縁取られた白い花を咲かせる落葉低木；葉は傷がつくと刺激的な匂いを発す